

## 令和3年度 連携・協力事業の実施状況について

## 教員養成専門部会

## 【プロジェクト名】 教育ボランティア活動

## 1 プロジェクトの目的・概要

佐賀大学教育学部と佐賀県教育委員会は、教員養成などを柱とした連携・協力協定の一環として、平成17年度から「教育ボランティア活動」を開始し、今年度17年目を迎えた。受け入れ経験校からは継続して希望提出があり、学生のみならず児童生徒、教職員にとっても貴重な機会となっている。派遣校や派遣学生、児童生徒へのアンケート結果からも、本事業が高い評価を得ていることがうかがえ、今後も継続していくことが有意義であると思われる。

当事業の主な目的は、以下の2点である。

- 教員志望の学生が、県内の公立小・中学校（義務教育学校を含む）、特別支援学校において、授業の補助や放課後の学習相談、学校行事の補助、部活動の支援、休み時間の遊びの相手など、様々な教育活動の支援をする。
- 教育現場におけるボランティア活動を通して、子どもとのコミュニケーションの取り方等についての基本的事項を身に付けることで、教職への資質や意欲を高める。

## 2 令和3年度の実施状況

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症防止のため年度初めに全面中止を決定した。令和3年度については例年通り行うこととし、当初、学生の派遣を希望する学校39校（42プラン）のすべてに204名の学生を振り分けて派遣する予定で、派遣校と派遣学生とで連絡を取り合いながら準備を進めていた。

しかし、教育ボランティア活動の実施時期である7月から9月に新型コロナウイルスの感染が拡大したため、急遽、中止せざるを得なくなった学校が多く出てしまった。

当初予定していた学校数よりも大幅に減少はしたが、最終的には13校に58名の学生を派遣することができた。

## 令和3年度の実施状況

	小学校		中学校		特別支援学校		合 計	
	派遣実績	派遣希望	派遣実績	派遣希望	派遣実績	派遣希望	派遣実績	派遣希望
学校数	8	30	4	8	1	1	13	39
派遣件数	8	30	4	8	3	3	15	42
派遣人数	35	126	16	41	7	7	58	204

※義務教育学校2校（多久中央校・大町ひじり学園）は小学校に入れています。

## (成果)

- ・現場での経験により、多くの学生に教職への意欲の高まりが見られた。また、大学での学業に打ち込む姿勢にも変化が見られ、教職を目指す学生としての自覚も深まった。

- ・学校現場の多忙化が言われる中、学習や学校行事の補助などの様々な場面で、学生たちが学校や子どもたちの役に立つことができた。
- ・教育ボランティア活動を通して学校現場との繋がりが出来たことで、活動期間後に運動会等の学校行事の補助や放課後等の学習支援に関わることができた学生もいた。

(アンケートより抜粋)

#### 【派遣学生】

- ・授業では、子どもたちが楽しく、かつ分かりやすくなるように対話的な授業が行われていたのが印象に残っています。教育ボランティアに参加したことで、教師への思いがより一層強くなりました。
- ・教育ボランティアを通して、自分の現状や教師の魅力、子どもの素晴らしさなどを、身をもって実感した。児童の力を最大限に引き出し、力を身につけさせるために、教師のサポートが大きく関わっていると思った。
- ・先生方はやはりレベルが違うなと感じた。授業の流れも計画的かつ明瞭でとても分かりやすかった。自分は勉強を教える側だったが、授業のやり方を教わっているような気分になったし、いい勉強になった。
- ・先生たちの大変さを感じる事が出来た。また、支援学校に対する見方をあらためることができた。生徒一人一人が生き生きと生活できるように、先生たちが支援という形で最高の場を作り出している働きかけがとても素晴らしく、有意義な体験になった。
- ・教育ボランティア活動を通して、子どもと教師との間に必要なものは信頼関係であると感じました。この活動は、自分の見識を広げるよい体験となりました。

#### 【派遣校の先生】

- ・学生それぞれが日々の活動に課題意識をもって取り組んでいた。活動後のミーティングでは、学習支援における児童との関わり方について、活発に意見交換する姿も見られた。また、学校における教育活動の実際に触れることで、学生自身が教師という仕事の苦労だけでなくやりがいを見つけ、「教師になりたい」という思いをさらに強くしているように感じられた。
- ・授業の補助、家庭学習の丸付け、休み時間の児童への対応等、意欲的に関わる姿勢が見られ、感心しました。また、一人一台端末の導入時期で、環境整備の手伝いもしていただき、助かりました。
- ・礼節をわきまえた行動ができており、生徒と適切な関係を築きながら指導にあたった。活動初日には学生にも堅さが見られたものの、日を追うごとに余裕をもった声かけ、生徒の質問に気さくに応じるなど、学習会に貢献してもらった。学校としても貴重な戦力となり感謝している。
- ・生徒が困った時や一人では活動が難しい時などにサポートをしてもらうことができ、授業をスムーズに行うことができた。休み時間なども生徒と話をしたり、運動をしたりしてもらい非常に助かった。
- ・個別の実態に応じて明るく優しく寄り添って支援してもらった。児童の話を聞いてもらったり、一緒に遊んでもらったり、一人でできる活動を見守って、ほめてもらったりして、児童も喜んでいました。

### 【児童生徒】

- ・算数の分からないところや新しい漢字の書き順など、分かりやすく教えてくれて嬉しかったです。
- ・ボランティアの先生方にたくさん遊んでもらって楽しかった。また、ボランティアの先生方と一緒に遊びたいです。
- ・休み時間にいろいろな話をする事ができて、楽しかった。
- ・いつも元気な挨拶をしてくれたので、ぼくたちも気持ちもよい挨拶をする事ができた。
- ・大学生のお兄さん、お姉さんだったので、年齢が近い分質問しやすかった。

### (課題)

- ・できるだけ多くの派遣希望校に学生を派遣するためと、教員免許取得を目指すすべての学生が学校現場での活動を経験することができるようにするために、近年は、「教育原論（教育学部2年生）」と「教育原理（他学部2年生）」の受講生全員に教育ボランティア活動への参加を課している。学生は、当事業の趣旨や価値を十分に理解してはいるものの、参加が義務付けられているものに「ボランティア」という名称がついていることには少なからず違和感をもっている。活動名と学生の参加形態との整合性を図るために、活動自体は今後も継続しながらも、当事業の名称については検討をする必要があると考える。
- ・令和3年度は、新型コロナウイルス感染症が蔓延していたため、例年より学生の派遣を希望する学校数が少なかった。そのため、今年度は派遣希望があった学校すべてに学生を派遣するよう計画することができた。しかし、実施時期に急速に感染が拡大したため、結果的には13校のみでの実施となった。学校ごとの派遣状況は小学校で8校（30校希望）、中学校で4校（8校希望）、県立学校で1校（1校希望）であり、中止が決まり派遣ができなかった学校が26校あった。派遣できた学校でも、児童生徒との接触は控え、活動内容を制限しながら実施された学校もあった。今年度のように予定通りに実施をすることが難しくなった場合、時期を移動したり活動内容を見直したりして、計画した分についてはできるだけ実施する方法で検討ができればと思う。
- ・今年度も学生の自宅や現住所の近くの学校に派遣するようできるだけ配慮をしたが、学生によっては、交通の便が不便なため学校周辺のホテルに宿泊をして活動に参加しようとした学生もいた。来年度も学生の配属先を決める際には、さらに工夫をする必要がある。

## 3 今後の予定

○令和4年度は、令和3年度とほぼ同様のスケジュールで教育ボランティア活動を実施する予定である。

時 期	概 要
4月下旬	・ 県教育委員会から市町教育委員会への文書発送（派遣希望調査）
5月中旬	・ 市町教育委員会から県教育委員会への派遣希望提出
5月中旬	・ 県教育委員会から大学への希望一覧表の提出
6月上旬	・ 大学及び県教育委員会による事前説明会
—	・ 大学における派遣についての調整
7月上旬	・ 大学から県教育委員会への派遣決定一覧表の提出
7月上旬	・ 県教育委員会から市町教委へ派遣決定文書発送
8月上旬	・ 派遣開始